



賀新春

今年の幕開けも二上山山頂で

新しい年をいかがお迎えですか。

私は元旦午前6時前から、ヘッドランプで足元を照らしながら二上山に登り、年始の夜明けを山頂で迎えました。すでに多くの人々が登っており、山歩きクラブの幾人かとも、新年のあいさつを交わしました。

写真は二上山・馬の背でおもてなしの甘酒を頂きつつ、夜明けを待つ人々。

憲法9条まもる取り組みが焦眉の課題に

昨秋の衆院選で多数を得るや否や、「改憲」を前面に出してきた安倍内閣、狙いは9条の改変。世界に誇れる平和憲法をまもり、戦争への道を許さない取り組みが焦眉の課題になってきました。「安倍改憲ノー！

憲法を生かす全国統一署名」が取り組まれています。署名で、行動で「戦争はイヤ」の意思を表しましょう。

思い出深い宮崎の山々

昨年4月下旬、宮崎県に高校同窓の男女13名が集まった。同窓会登山を20年近く続けてきたメンバーの有志。「大崩山(おおくえやま)に登りたい」との私の願いをきっかけに、全国各地から馳せ参じてくれたのだ。

大崩山は宮崎県北部の祖母山塊の南東に位置する大崩山群の主峰で、祝子川(ほおりがわ)その他の渓谷美と春のアケボノツツジ、秋の紅葉の美しさで知られる名山である。↑西都原遺跡から見た尾鈴山
高校時代から登りたかった山だが、何回かのチャンスを逃して今日に至っている。



↑西都原遺跡から見た尾鈴山

集合日当日、延岡駅前から五ヶ瀬川沿いの日之影バイパスを走って、大崩山麓に近い宿舎に泊まったものの、翌日は雨、登頂を断念して、日之影温泉(廃線となった鉄道の日之影駅駅舎を活用)などを楽しんだ。そして山に心を残したまま解散となった。

尾鈴山と行藤(むかばき)山

大崩山登山は先送りとなったが、皆より2日前に宮崎入りした私はレンタカーを駆って2つの山に登った。一つは同県都農町と木城町にまたがる1405.2mの尾鈴山、もう一つは延岡市郊外に行藤(むかばき)山(829.9m)。両山とも初めての山だったが、尾鈴山は数多くの滝の美しさと自然の豊かさが印象深く、行藤山は特異な岩峰と滝、ツツジ類の花の多さが目立ったし、天空から

←行藤滝 アケボノミヤマシキミ(尾鈴山) ⇒





落ちてくるかのごとき行膝滝もみごとだった。

また、車窓から見ただけだが、大崩山周辺の岩峰の山々は登頂意欲を刺激して余りあるものだった。日を改めて挑戦することとしよう。

←**サツマイナモリ (尾鈴山)**

続・二上山に咲く花々 43

アキノタムラソウ (秋の田村草)

シソ科アキギリ属

写真 澤木 仁 さん

夏から秋にかけて長い間、二上山のあちこちで咲き続けます。茎はシソ科の特徴を示して四角。草丈は 20~80 cm、まっすぐ茎を立ち上げ、長い穂状の花序を伸ばして、1 cm くらいの薄紫色の花を数段、輪状に咲かせます。

〇〇田村草という植物はいくつかありますが、その名の由来・意味は不明とのこと。



続・二上山に咲く花々 44

フジバカマ (藤袴)

キク科フジバカマ属

写真 澤木仁さん

秋の七草のひとつ。奈良時代に中国から渡来したものとされていますが、在来種説もあります。庭にもよく植えられています。野山でも自生していて、花期は 8~11 月、草丈 1~1.5m で、枝の先に淡紫紅色の小さな花を多数咲かせます。

旅をする蝶・アサギマダラが吸蜜する花の代表格。漢方では薬とされていますが、有毒なので要注意。

フジバカマを植えようかな

今年頂いた年賀ハガキで、2 名の方がフジバカマとアサギマダラについて触れていました。両人とも高校同窓生で、福岡宗像市の T・T さんは、自宅に植えたフジバカマに何匹かのアサギマダラが訪れてきたことを、大阪府下の T・

K 氏は京都保津峡でフジバカマで旧蜜する姿を見たとして、それぞれ写真を張りつけていました。

後期高齢者になった同窓生が、いずれも自然の営みとその不思議に触れての感動を特筆していることに、読んだ私も強い共感を覚えました。自宅の狭い庭にもフジバカマを植えてみようかな。

アサギマダラ⇒

